

# YOMISAT アジア

バンコク支局 ☎02254-3921 中国総局 ☎6532-2053  
 シンガポール支局 ☎6222-3029 (北京)  
 ジャカルタ支局 ☎5724301 上海支局 ☎6472-5480  
 マニラ支局 ☎817-5274 香港支局 ☎2882-1392  
 イスラマバード支局 ☎2824248 台北支局 ☎2351-4589  
 ハノイ支局 ☎8268-809 ソウル支局 ☎732-0381

オーストラリアの民  
 族研究について語る  
 生前の保知さん(読  
 売新聞東京本社で20  
 03年3月24日)

## 先住民研究半ば 32歳で急逝



### 豪2大学

# 成果と人柄たたえ 記念奨学金を設立

【シドニー＝樋口都子】オーストラリアの先住民アボリジニの歴史研究に新たな視点をもたらしながら、三十三歳の若さで亡くなった日本学者、保知美(みづみ)さんを記念し、慶州の二大学が相次いで奨学金を設立した。大学側は「研究同様、私生活でも異文化の理解を深めることに熱心だった彼の人物を永遠に記憶に残したい」としている。

### 長老と親交、新境地開く

保知さんは一九九六年来、オーストラリア国立大学で学んだ。アボリジニの言語集団の一つである「グリム」の歴史が専門で、北  
 部慶州にある彼らの集落にたびたび出かけ、生活をともにするフィールドワークを延べ二年間続けた。ライバル片手にカンガルー鹿に出かけたり、橋のない急流を命がけで泳いだり

といった大自然での暮らしを通して、アボリジニの人々の世界観じかに触れ、感銘を受けた。やがてグリムの言葉を覚え、長老らの語るオラル・ヒストリー(口述歴史)に耳を傾けた。

口述歴史は、多くのアボリジニ集落で伝承されているが、内容の多くは史実に違い、神話や迷信としての位置づけが一般的だ。しかし、保知さんは現地調査を通じ、こうした言方を根本から覆した。オーストラリア国立大学のアン・マックグラス教授は

「ミク(美香さんのこと)は口述歴史を彼ら独自の世界観と社会の中で意味を持つ歴史の一形態と認めた。多くの郷土学者と違い、先住民の歴史へ敬意を示した点はとても画期的だった」と話す。

私生活はジャズの大ファンで、多くの友人に慕われたという。リカ・ラジャクラシン・ハムさん(可)は「話し好き。映画に行っても、後で内容を長々と語らないうえに気が済まないやつだった」と懐かしむ。またリンドン・ベネットさん(33)は「自信は過ちあふれ、いつも楽しそうだった」と話す。



二〇〇一年に博士号を得た保科さんは、翻訳や本の執筆に取り組みながら本格的な学術生活のスタートを切った。しかし、釧路西部グループに聞き取り調査に行く途中の昨年七月、背中に激痛が走り、アテレードで緊急手術。リンパ球の

がんが急激にリンパ腫と診断され、メルボルンで闘病生活を送った後、今年五月に永眠した。

保科さんの死を受け、オーストラリア国立大は「先住民への敬意というモデルを多くの研究者に引き継いでほしい」として、今年七月に記念奨学金を設立。また、ニューサウスウェールズ大でも、保科さんが生活していた学生寮が今月、記念奨学金を設立した。

このうち、オーストラリア国立大の奨学金は、アホリシニのフィールドワークを行う研究者を対象としたもので、ミック・クラウス教授や保科さんの姉の由紀さん(可)が中心となって寄付を呼びかけている。

由紀さんは「弟のために協力してくれる方々に感謝し、大切に活用したい」と話す。寄付の方法などは保科さんのウェブサイト(<http://hokariminoru.org>)に掲載されている。